

感染症発生動向調査委員会報告 3月

《今月のトピックス》

- インフルエンザは減少傾向ですが、警報解除基準値(定点あたり 10.00)を依然として上回っています。
- 麻しんの海外輸入例が首都圏で増加しています。
- A 型肝炎の報告が増加しています。

全数把握疾患 3月期に報告された全数把握疾患

A型肝炎	2件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	5件
アメーバ赤痢	2件	侵襲性肺炎球菌感染症	8件
急性脳炎	1件	風しん	1件
クロイツフェルト・ヤコブ病	1件	麻しん	1件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件		

＜A型肝炎＞2件の報告がありました。どちらも経口感染が推定されており、直近の海外渡航歴はありませんでした。全国的にA型肝炎の報告が増加しており、厚生労働省から注意喚起の[事務連絡](#)が出されています。報告の7割程は国内が推定または確定感染地域とされています([IDWR 2014年第7号<注目すべき感染症>2014年のA型肝炎の増加](#))。国内での感染経路としては、魚介類の生食などによる経口感染や、性的接触などが報告されています。市内でも昨年は4件の報告でしたが、今年は既に5件報告(すべて直近の渡航歴は確認できていません。)されており、注意が必要です。

＜アメーバ赤痢＞腸管アメーバ症2件の報告があり、1件は国内での感染が推定されていますが感染経路等不明、もう1件は感染経路感染地域等不明でした。

＜急性脳炎＞1件の学童の報告があり、インフルエンザAH1pdm09が検出されています。

＜クロイツフェルト・ヤコブ病＞1件の古典型CJDの報告があり、診断の確実度はほぼ確実です。

＜劇症型溶血性レンサ球菌感染症＞30歳代女性の報告が1件あり、血清型はA群でした。感染原因感染経路は不明です。

＜後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)＞無症状病原体保有者3件、AIDS 2件の報告がありました。無症状病原体保有者では、2件が国内での同性間性的接触による感染が推定されており、もう1件は感染経路感染地域等不明でした。AIDSでは、1件がHIV消耗性症候群を認め、国内での異性間性的接触による感染が推定されており、もう1件はカンジダ症(食道)、サイトメガロウイルス感染症とHIV脳症を認め、国内での同性間性的接触による感染が推定されています。

＜侵襲性肺炎球菌感染症＞8件(幼児1件、成人7件)の報告がありました。そのうち、幼児1件(血清型33型)はワクチン接種歴が3回ありましたが、成人例6件(血清型19型2件、15型、7型、6型、3型、型別不能型それぞれ1件)ではワクチン接種歴が確認できませんでした。予防にはワクチン接種が重要です。

＜風しん＞男性1件(ワクチン接種歴不明)の報告がありました。風しんは従来2月～3月の早春から初夏頃が流行時期なので今後の注意が必要です。先天性風しん症候群予防のため、妊娠を予定・希望している女性は予防接種を受けましょう。流行の抑制には男性の予防接種も重要です。先天性風しん症候群の発生には、妊婦が風しんに罹患してから出産するまでの期間のずれがあるので注意が必要です。

＜麻しん＞1件の報告がありました。30歳代女性で遺伝子型D9(海外由来の麻しんウイルスのタイプ)が検出されていますが、海外渡航歴はありませんでした。現在フィリピンなどでは麻しんが流行しており、海外からの輸入例が、特に首都圏で増えています。海外渡航歴や海外の人との接触が考えられる患者の診察では留意が必要です。さらに、国内発生の事例では、本人の気づかないところで海外からの輸入例と接触し、感染したことが疑われる事例が報告されているので注意が必要です(参考:[麻しん臨時情報](#))。麻しんの予防には2回の予防接種が必要です。定期予防接種(1回目:1歳以上2歳未満、2回目:5歳から7歳未満で小学校就学前1年間)で、麻しん・風しん混合ワクチン(MRワクチン)を確実に接種しましょう。麻しんの検査診断にあたっては国立感染症研究所の「[麻しん検査診断アルゴリズム](#)」をご参照ください。また、診断の確定には適切な時期のPCR検査が有用です。検査については最寄りの福祉保健センターにご連絡ください。

定点把握疾患 平成26年2月24日から平成26年3月23日まで
 (平成26年第9週から平成26年第12週まで。ただし、性感染症については平成26年2月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成26年 週一月日対照表

第9週	2月24日～3月2日
第10週	3月3日～3月9日
第11週	3月10日～3月16日
第12週	3月17日～3月23日

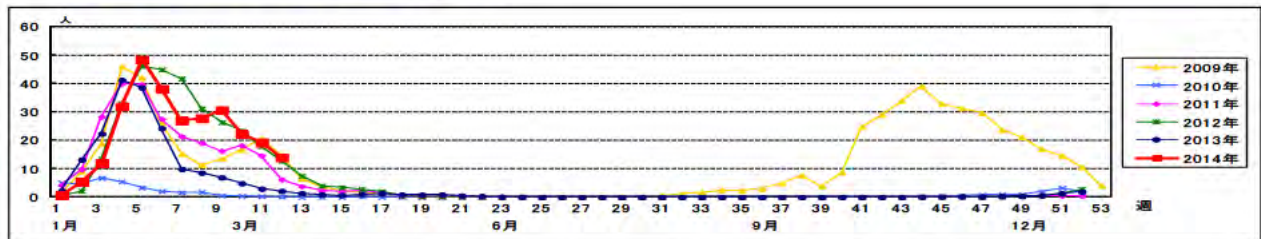
1 患者定点からの情報

市内の患者定点は、小児科定点:92か所、内科定点:60か所、眼科定点:19か所、性感染症定点:27か所、基幹(病院)定点:4か所の計202か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

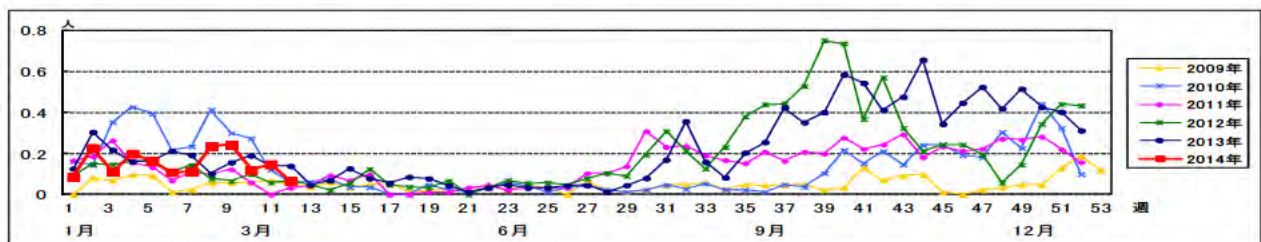
<インフルエンザ>市全体の定点あたりの患者報告数は減少傾向で、第12週は14.01となりましたが、まだ警報解除基準値(10.00)を上回っています。第12週にはAH1pdm09型による急性脳症が報告されており、まだ注意が必要です。迅速キット結果報告ではB型が9割近くを占めていますが、衛生研究所で検出した結果では山形系統が多く検出されています。また、衛生研究所でAH1pdm09型の76株を検査したところ、耐性株(275Y)が1株みつかりました。北海道で地域流行していた株との関連については現在検査中です。

◆[横浜市インフルエンザ臨時情報](#)(衛生研究所)

◆[インフルエンザ予防チラシ](#)(横浜市)

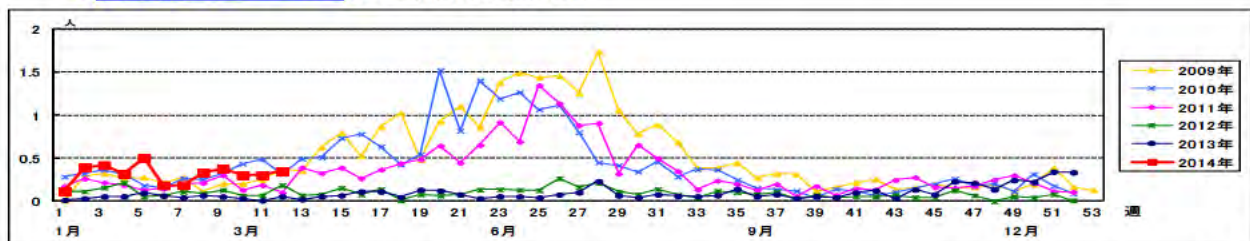


<RS ウイルス感染症>第12週は定点あたり0.07と、報告は落ち着いています。



<伝染性紅斑>第12週は定点あたり0.35と、例年に比べ時期としては報告数が多くなっています。伝染性紅斑は典型的なヒトパルボウイルスB19(以下B19)感染症の臨床像です。B19感染症で注意すべきものの一つとして、妊婦感染による胎児の異常(胎児水腫)および流産があります。

◆[伝染性紅斑について](#)(国立感染症研究所)



<性感染症>2月は、性器クラミジア感染症は男性が16件、女性が7件でした。性器ヘルペス感染症は男性が4件、女性が6件です。尖圭コンジローマは男性3件、女性が0件でした。淋菌感染症は男性が23件、女性が0件でした。

<基幹定点週報>マイコプラズマ肺炎は第9週0.25、第10週0.25、第11週0.75、第12週0.00と落ち着いています。感染性胃腸炎(ロタウイルス)は第9週0.50、第10週0.00、第11週0.75、第12週0.00となっています。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

<基幹定点月報>2月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症3件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症1件の報告がありました。薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

<ウイルス検査>

3月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点47件(鼻咽頭ぬぐい液46件、嘔吐物1件)、内科定点18件(鼻咽頭ぬぐい液18件)、基幹定点3件(鼻咽頭ぬぐい液2件、キット残液1件)で、定点外医療機関からは5件(鼻咽頭ぬぐい液5件、気管支吸引液1件、髄液1件、尿1件、血漿1件)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点はインフルエンザ(疑い含む)31人、下気道炎7人、上気道炎5人、アデノウイルス感染症2人、および胃腸炎1人、手足口病各1人、内科定点はインフルエンザ(疑い含む)17人、上気道炎1人、基幹定点はインフルエンザ2人、下気道炎1人、定点外医療機関はインフルエンザ(疑い含む)3人、無菌性髄膜炎1人、先天性風疹症候群1人でした。

4月10日現在、小児科定点のインフルエンザ患者18人と上下気道炎3人、内科定点のインフルエンザ患者9人からインフルエンザB型山形系統ウイルス(アデノウイルス2型と重複1人、アデノウイルス遺伝子と重複2人、パラインフルエンザ1型遺伝子と重複2人、パラインフルエンザ2型遺伝子と重複1人、ヒューマンメタニューモウイルス遺伝子と重複1人、RSウイルス遺伝子と重複1人)、小児科定点のインフルエンザ患者6人とアデノウイルス感染症患者1人、内科定点のインフルエンザ患者3人からインフルエンザB型Victoria系統ウイルス(アデノウイルス3型と重複1人、パラインフルエンザ3型遺伝子と重複1人、ヒューマンメタニューモウイルス遺伝子と重複1人、パラインフルエンザ3型遺伝子とRSウイルス遺伝子との重複1人)、小児科定点のインフルエンザ患者6人、内科定点のインフルエンザ患者1人、基幹定点のインフルエンザ患者2人、定点外医療機関の急性脳症患者1人からインフルエンザAH1pdm09ウイルス(パラインフルエンザ1型遺伝子と重複1人、ヒューマンコロナウイルス遺伝子と重複1人)、内科定点のインフルエンザ患者2人からインフルエンザAH3型ウイルスが分離されています。

これ以外に遺伝子検査では、小児科定点の上気道炎患者2人と下気道炎患者2人、基幹定点の下気道炎患者1人からヒューマンコロナウイルス、小児科定点のインフルエンザ患者1人と下気道炎患者1人、内科定点の副鼻腔炎患者1人からパラインフルエンザ1型(ライノウイルスとの重複1人)、小児科定点のアデノウイルス感染症患者1人と上気道炎患者1人からアデノウイルス、内科定点のインフルエンザ疑い患者1人からインフルエンザB型山形系統ウイルスとヒューマンコロナウイルス、小児科定点の手足口病疑い患者1人からライノウイルス、定点外医療機関の先天性風疹症候群患者1人からルベラウイルスの遺伝子が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

【 検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

3月の感染性胃腸炎関係の受付は、基幹定点から6件、その他が5件でいずれも病原菌は検出されませんでした。

その他の感染症は小児科から3件、基幹定点から2件、その他が18件でした。

(次ページに表)

表 感染症発生動向調査における病原体検査(3月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別	3月			2014年1月～3月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
件数	0	6	5	0	38	10
菌種名						
赤痢菌						1
サルモネラ					24	
不検出	0	6	5	0	14	9

その他の感染症

検査年月 定点の区別	3月			2014年1月～3月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
件数	3	2	18	12	9	58
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌			1			1
T1						
T6	1			5		
T12	1			3		
型別不能	1			2		
B群溶血性レンサ球菌			3			5
G群溶血性レンサ球菌						1
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌		1			4	
<i>Legionella pneumophila</i>			1			2
インフルエンザ菌						2
肺炎球菌			11	1		44
百日咳		1			1	
その他					4	1
不検出	0	0	2	1	0	2

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】